茅ヶ崎市立病院 Chigasaki Municipal Hospital

CHIGASAKI 市立病院だより

**第４２号**
平成１２年７月発行
発行／茅ヶ崎市立病院
茅ヶ崎市本村 5-15-1　TEL52-1111

# こどもの成長

小児科　小田　洋一郎

## はじめに

　赤ちゃんが生まれて、はじめに尋ねられるのが赤ちゃんの性別と体重です。大きかった、小さかった、誰に似ている似ていないと話が弾みます。赤ちゃんが育つにつれ、１ヶ月健診、４ヶ月健診、お誕生前健診、１歳６ヶ月健診、３歳健診と健診の度に身長、体重、発達の様子などが記録されます。幼稚園や保育園、学校などでも、定期的に身体測定が行われます。こどもの体格は親に似るものですが、ここでは、こどもの身体発育を成長曲線を作ることで確かめる方法を述べます。

## こどもの成長

　赤ちゃんは生まれてから４ヶ月で体重が２倍に増えます。身長は１年で約２５cm伸びます。この最初の１年は人生の中で最も身長増加が大きい時です。そして４歳頃に２倍になります。４歳では１年に７cm程度の身長増加があり、以降、年間身長増加は徐々に減っていき、８歳頃には５cm程度になります。その後、男児ではおおむね１１歳前後から、女児では１０歳前後から思春期に入ります。思春期には身長がまた急激に伸びるようになり、１年で１０cm伸びたりします。やがて、２次性徴が完成するに従い、骨が成熟して身長増加が緩やかになり、大人の身長に近づいていきます。

## 成長曲線を作ってみましょう

　６歳未満のこどもは母子手帳を利用します。６歳以上のこどもには下の簡易成長曲線にこれまで測定された身長を書き込んで成長曲線を作ってみましょう。

　身長を測定したのが例えば８歳６ヶ月の場合、８歳と９歳のちょうど真ん中に身長をつけるように注意して下さい。このグラフが完成するとお子さんのこれまでの成長の軌跡が一目でわかります。簡易成長曲線の場合、真ん中の太い線は平均身長をあらわします。上

下の線が±２ＳＤをあらわし、その間に約９５%のこどもが入ります。プロットした身長が、この外側の線で囲まれる範囲より下にあれば低身長、上にあれば高身長ということになります。

## 作った成長曲線をながめる

作成した成長曲線が±２ＳＤの範囲にあって傾きが平均とほぼ並行になっていれば、お子さんの身体発育は順調といえます。

身長が±２ＳＤの範囲からずれていることが必ずしも病気を意味するわけではありません。例えば、低身長を心配して病院を訪れる方の中ではっきりとした原因が判明するのはおおむね２割程度の方にすぎず、多くの方は体質的といわざるをえません。

しかし、次に述べるような成長曲線のパターンになっていく場合には、早期に原因について調べてみるのがよいでしょう。

## 注意を要する成長曲線のパターン

成長障害の代表的な４つのパターンについて説明してみましょう。

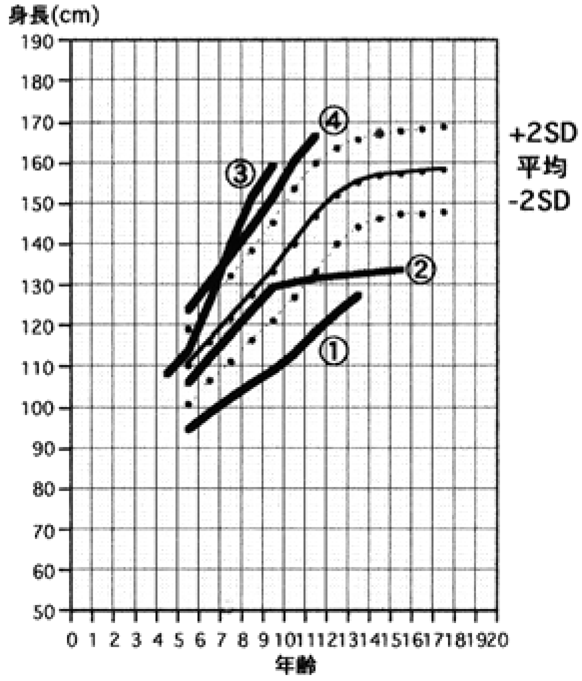
① １年あたりの身長増加が悪く、成長曲線が段々緩やかになってくる場合。
ホルモンの異常による場合（成長ホルモン分泌不全など）、生まれつきの骨の病気による場合（軟骨異栄養症など）、染色体に原因がある場合（ターナー女性など）、慢性疾患に伴う場合（先天性心疾患、肝臓病、腎臓病、先天性代謝異常、炎症性腸疾患など）、強い心理的ストレスによる場合（愛情剥奪症候群など）等々が疑われます。

② ある年齢から急に身長増加が低下してくる場合。
後天性の甲状腺疾患（橋本病など）や、脳腫瘍などが疑われるので早めに病院を受診しましょう。また、別な病気の治療のため相当量の副腎皮質ホルモンを長期に使用した場合にもこの様な成長曲線になります。

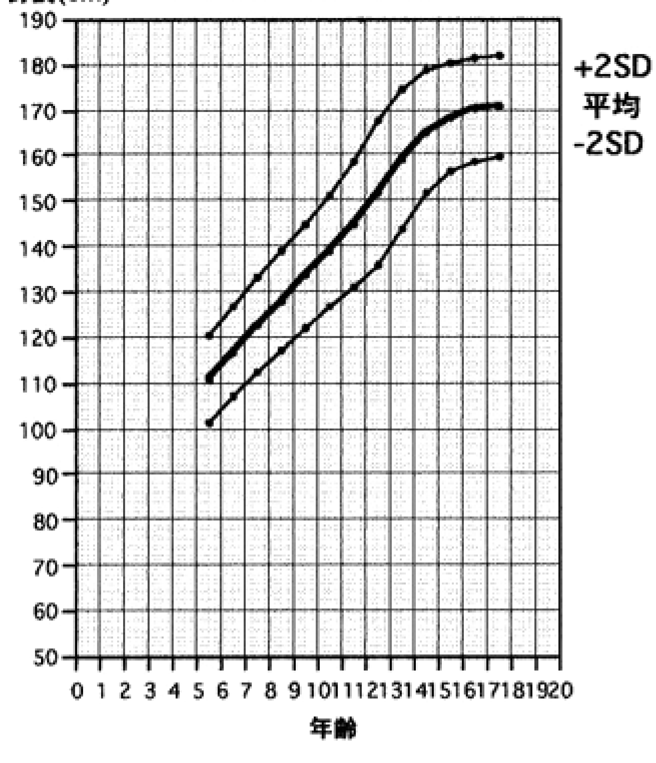
③ ある年齢から急に身長の増加が増す場合。
思春期の身長増加はこの様になります。思春期発来が早すぎる場合（男児で９歳未満、女児で７歳未満）には原因を調べる必要があります。

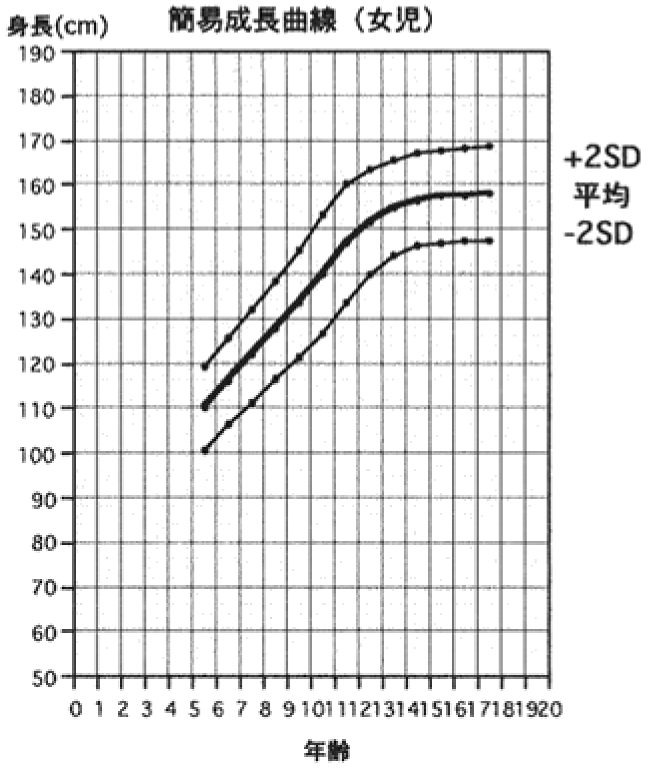
④ 一貫して高身長の場合は体質的なことが多いのですが、極端な高身長の場合、巨人症や先天異常などが疑われることがあります。

代表的な成長障害のパターン




簡易成長曲線（男児）






（グラフは文部省１９９４年学校保健統計調査より作成）

Copyright © 2000 - 2003 Chigasaki Municipal Hospital. All Rights Reserved.